

情報

あちかると

被災地の高校生  
対象に米国留学

東日本大震災の被災地の高校生を対象とする米国留学事業「TOMODACHIイサマー2013」は、7月末から3週間の日程で行われる。カリフォルニア大学バークレー校で、リーダーシップスキルと地域貢献について学ぶ。

日米両国政府と米国非営利公益法人「米日カウンスル」が主導する取り組みで、事業に賛同したソフトバンク社が支援している。昨年は300人の学生が参加し、留学後に米国の大学に進学するケースもあった。

募集人員は100人。渡航費や滞在費など、すべて無料。本県での事業説明会は、31日に宮古市の県立水産科学館ウオリヤ

ス、4月6日に久慈市立中央公民館でそれを開かれる。時間は両日とも午後1時半

アートを活用した  
地域活性化事例集

財団法人・地域活性化センターはこのほど、「アートを活用したまちづくり」の12年

度地域活性化事例集を発行した。地域の自然や文化の中に「アート」を取り入れながら特徴ある活性化に取り組んでいる全国45事例を掲載している。本県では彫刻のあるまち岩手町の事例が紹介されている。

岩手町は文字通り彫刻のあるまち。岩手町彫刻公園や野外彫刻美術館「石神の丘美術館」、そして学校や公共施設などまち全体に彫刻が点在する。

もともとは昭和40年代からの国際石彫シン

から。問い合わせは、米国非営利教育法人「アユサインターナショナル日本事務局」(フリーダイヤル0120・955・320)。

ボツウムに始まり、作家と子どもたちの彫刻教室の開催などが下地となり、その集大成が石神の丘美術館オープンだった。

同美術館は約16秒の広大な野外展示施設。県内はじめ全国の彫刻作家の作品があるほか、ラベンダー畑もあり幅広く浸透している。年間の入館者は約2万人で推移している。

特別企画展や町民無料招待などを企画しているが、今後は関心を呼ぶ新たな仕掛けなど、一層の集客に向けた取り組みを課題としている。

同町の取り組みは他自治体や地域の活性化の参考にもなりそう

岩手県新聞社 121